

EdTech 補助金 成果報告

株式会社QQ English 営業開発部門

2021年2月12日

会社概要

会社名：

設立：昭和62年5月18日

本社所在地：東京都新宿区西新宿1-11-11 河野ビル6F


代表取締役：藤岡 頼光

資本金：1億円

売上金：グローバル全体で20億円（2020年9月決済時点）

事業内容：

- **オンライン英会話事業**：大学・小中高校市場へのオンライン英会話レッスン提供、一般ユーザー向けのオンライン英会話レッスン提供
- **語学留学事業**：フィリピン・セブ島のグループ会社が経営する2つの語学学校における語学留学事業
- **ALT教師派遣事業**：大学・小中校市場へのフィリピン人教師の派遣事業

A young man with dark hair, wearing a white face mask and a black headset with a microphone, is seated at a desk in a classroom. He is focused on a laptop screen. The laptop screen displays a webpage with a blue header and the text "EXAM CARD". The background shows a green chalkboard with some papers pinned to it, and another person is visible sitting at a desk in the distance. A blue backpack is on a chair in the foreground.

教育機関向けの オンライン英会話事業について

教育機関導入事例

150以上の学校で使用されております。

【大学】 関西大学 / 明治大学 / 実践女子大学・短期大学 / 神戸大学 / 拓殖大学 / 千葉大学 / 東洋英和女学院大学 / 杏林大学 / 東京家政大学 / 京都工芸繊維大学 / 奈良女子大学 / 東京電機大学 / 職業能力開発総合大学 / 東京工業大学 その他多数

【中学校・高等学校】 立命館宇治中学校 / 十文字中学校 / 武蔵野東中学校 / 大宮開成中学校 / 横浜富士見丘学園中等教育学校 / ノートルダム女学院中学高等学校 / 大妻中野中学校・高等学校 / 東京立正中学校・高等学校 / 大妻嵐山中学校・高等学校 / 女子聖学院中学校高等学校 / 西大和学園中学校・高等学校 / 京都府立南陽高等学校 その他多数

【小学校】 学校法人神村学園初等部 / 熊本県高森町教育委員会 その他多数



自社開発ツールを使用したレッスン

PCでもスマートフォン・タブレットでも利用可能

専用アプリは無料でAppStoreやGoogle Playからダウンロード可能です。PCの場合はGoogle Chromeブラウザに対応しております。

後からレッスンを振り返られる「ビデオ機能」搭載

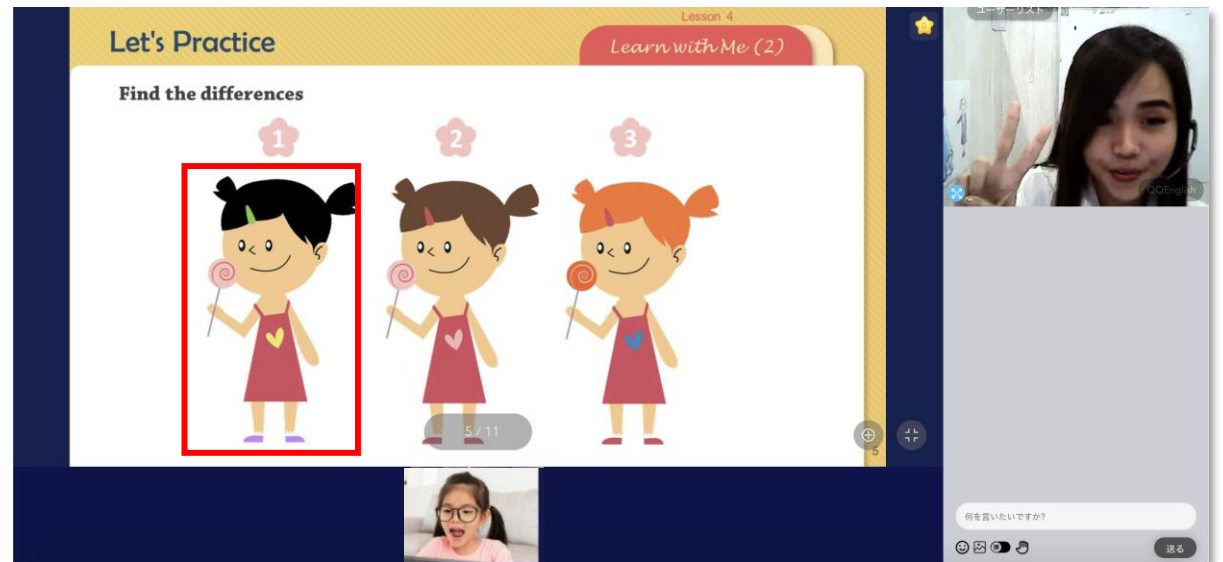
QQ English専用ツールで受講したレッスンは最大30日間保存されます。自身のレッスンを振り返り、メタ認知力を高めながら自身の強みや改善すべき点を確認することができます。

見やすいスクリーン

通常のオンライン会議ツールとは異なり、レッスンに専念出来るように、スクリーン部分を大きめに設計しております。小学生から中高生、大学生や一般利用者まで幅広い年齢層の方にストレスなくレッスンを受講頂けるように工夫しております。

指示内容が視覚的にも判断できる画面

オリジナルツールでは、レッスン中に教師が指示している内容を□や○の囲み線、またはペンツールをつかって表示（ポイント）することが出来ます。それにより、英語が苦手な児童生徒も楽しくコミュニケーションをとりながらレッスンを受講することが出来ます。



選べるカリキュラム



試験対策

英検二次試験、GTECスピーキング対策、TOEIC/IELTS対策等、各種スピーキング試験のモックテスト形式カリキュラム。



文法基礎

小学生から高校生まで、文法とコミュニケーションを両方学習出来るカリキュラム。



意見陳述・写真描写

自分の意見を伝えたり、写真描写を練習するカリキュラム。初級者～上級者向けに用意。



プレゼンテーション

自分の身の回りの事柄について、テンプレートを使い英語スピーチを作成し、発表出来るカリキュラム。



今回の取り組みにおける 成果報告

令和2年度：EdTech導入 実証事業補助金 ご利用の実績

- 実施対象校：
全16校（内訳：公立小学校2校、公立中学校2校、県立高校7校、
私立中学校2校、私立高等学校3校）
- 全体レッスン数：41,345レッスン
 - ①授業導入型同時受講：5,552レッスン
 - ②個別自由受講：35,793レッスン
- レッスンカリキュラム：
試験対策、プレゼンテーションクラス、文法基礎、写真描写・意見陳述をメインに、児童生徒の目的とレベルに応じたカリキュラムを提供。

導入活用例① 公立小学校での利用

- 生徒数：40名（3年：8名、4年：13名、5年：9名、6年：10名）
- 使用カリキュラム：QQ English小学生用教材・プレゼンテーション
- 受講形態：同時受講
- 一人当たりのレッスン回数：6回

小学校の中の英語受講や総合授業の時間を利用し、クラス全員が同時にタブレットを用いてレッスンを受ける「同時受講」の形態で進化した。3年生・4年生に関しては、QQ Englishが用意している、小学生向けの英語教材を用いた「英会話導入の為にオンラインレッスン」を実施した。初めてのオンライン英会話にもかかわらず、マンツーマンレッスンで、1回のレッスンの進行は一人一人のペースに合わせてレッスンすることが出来たので、児童も安心して取り組むことが出来た。児童からは「もっと続けたい」という声も挙がっていた。また、5年生・6年生に関しては、自己紹介や身の回りの人を紹介したり、自分の趣味や好きなもの・ことについて紹介する「プレゼンテーションクラス」を実施した。今回の取り組みを見守っていた教員からは「これからはマンツーマンで会話を行うことこそが力になると実感した」と好意的な意見も寄せられた。

導入活用例②公立中学校での利用

- 生徒数：79名（中学1年～3年）
- 使用カリキュラム：プレゼンテーション・初級トピックカンバセーション・英検二次面接対策
- 受講形態：個別自由受講
- 一人当たりのレッスン回数：24回

通信ツールの仕様がサーバの設定条件に合わなかったため、急遽自宅での受講となった。自宅にネット回線があることが提供条件だったにも関わらず79名の応募があった。マンツーマンで自分の英語を試してみたいという生徒の「英語でのコミュニケーション」に対する高い関心がうかがえた。自宅受講は、生徒自身がレッスン予約を計画的に進めていくことができるか心配もあったが、大きな問題もなく、多くの生徒は計画的に受講できていた。

レッスンツールの使い方について事前オリエンテーションも用意したが、普段からTeamsを使っていることもあり、個々のITリテラシーが高く、すぐに使うイメージがついたようだ。結果として、受講者の満足度は非常に高く、特に自分自身の経験を基に英語で表現することが求められる「プレゼンテーションクラス」で、は高い評価を得ることができた。今回、自宅からの自由受講となったが、教員からは空き時間を利用して、管理画面から生徒のレッスンビデオを視聴することが出来たため、「レッスンの進捗を安心して見届けることができた」と、管理画面の機能に対しても好意的な意見が寄せられた。

導入活用例③私立高校での利用

- 三浦学苑高等学校
- 生徒数：7名（普通科IBコース1年生）
- 使用カリキュラム：英検二次面接対策・SDGsトピックカンバセーション
- 受講形態：同時受講
- 一人当たりのレッスン回数：48回

2020年度から新設された「普通科IBコース」にて、授業終了後の放課後の時間を利用してオンライン英会話導入を決定。英検本試験前はスポット利用として「英検二次面接対策」を利用し、それ以外のレッスンでは「SDGsトピックカンバセーション」を利用。英検二次面接対策では、各生徒が受験する級に合わせて、モックテストとしてオンライン英会話レッスンを利用した為、「試験前の対策として、予行練習が行えた為に効果的だった。」と高い評価を得られた。また、SDGs*をテーマに扱ったトピックカンバセーションでは、「難しい内容ではあったが、あらゆる社会課題について英語で考えること、そして、英語で自分の意見を述べたり、新しい自分のチャレンジの可能性を確認することが出来た。」として高い評価を得ることが出来た。

*SDGs: 「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称です。

三浦学苑高等学校 田中宏作先生からのコメント

週2回のペースでレッスンを受講できたので、英語でのコミュニケーションにより積極性が出てきました。受講している時の姿勢が以前よりも堂々としています。レッスン時間も25分程度で、オンラインでは適切な配分だと感じました。その方が週に2回、3回と受講回数を重ねたくなくなります。英検対策、トピックカンバセーションなど内容とそのレベルが豊富なことも生徒が飽きずに受講できた理由だと思います。各講師がキーワードなどを書き留め、それを生徒と共有してくれているので、語彙のビルドアップにもつながっていました。本校はお陰様でICT環境が整っているため、このための環境整備面で苦労はありませんでした。カリキュラム上、7校時の授業後に課外活動としてレッスンを設定していたため、生徒たちの自由な時間を削っていたことが唯一の悩みでした。引き続き次年度以降もぜひオンライン英会話講座は継続して導入していきたいと考えております。

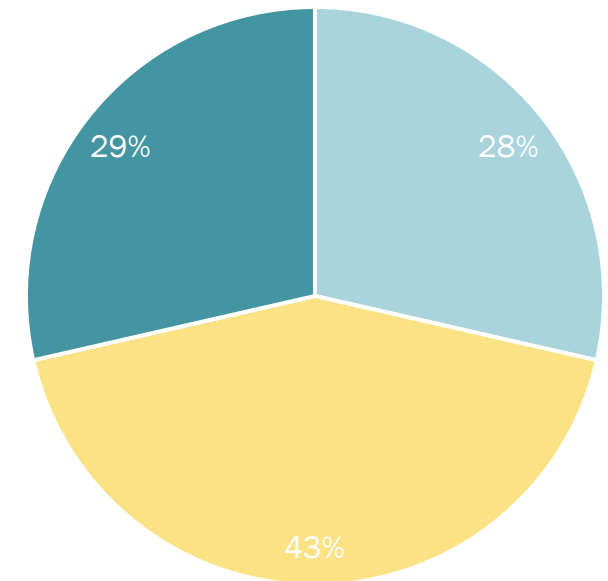
導入面での課題①

付属品やインターネット回線に対する配慮：

学校でオンライン英会話を導入頂くにあたり、PCやタブレット機器に加え「マイク機能付きイヤフォン、ヘッドセット」や、複数台接続可能なインターネット環境をご用意頂く必要がある。特に、一つの教室内で複数人がマンツーマンレッスンを行う場合、マイク機能付きイヤフォンやヘッドセットがない状態では、ハウリング等の問題が生じるため用意は必須であるが、インターネット回線や端末（パソコン・タブレット）の用意が先となりイヤフォンやヘッドセットの用意については「想定外だった」と言われる場合もある。

今年度、補助金制度を利用し導入頂いた自治体・学校に、「イヤフォン・ヘッドセットの準備」や「インターネット回線準備」について、今回の取り組みに対しどのようにイヤフォンやヘッドセットを調達されたか、またインターネット回線の増強について設定変更が必要であったか確認したところ、右のグラフの通り回答を得ることができた。

イヤフォン・ヘッドセットの準備について



- 今回の取り組みで初めて用意した
- 生徒に各自用意してもらった
- 今回の取り組みより前に既に用意していた

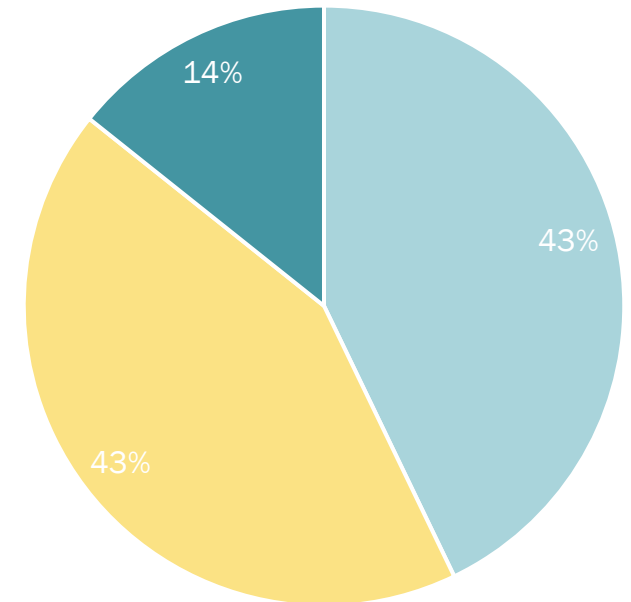
導入面での課題②

付属品やインターネット回線に対する配慮：

また、QQ Englishのオリジナルツールを導入するにあたり、自治体や学校のサーバ設定において調整が必要となる場合がある。サーバ調整が叶わず学校での同時受講を断念するケースも発生した。

今後、学校でオンライン英会話を導入するにあたり“イヤフォンやヘッドセット”に対する予算の策定、または各生徒や家庭の負担の上用意する等、**付属品に関しても利用端末と同レベルで事前に考慮頂いた上で導入を進めて頂けるように、更なる配慮が必要がある**ということを改めて確認することが出来た。

インターネット回線について



- 今回の取り組みに関して、回線増強しないと使えない状態だった
- 今回の取り組みに関して、特に回線の増強はせずに実施出来た
- 生徒に各自用意してもらった

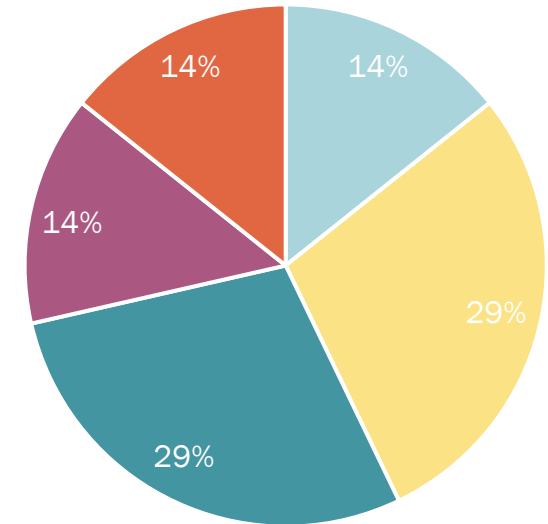
導入面での課題③

付属品やインターネット回線に対する配慮：

なお、『端末・インターネット回線・機器準備関係でどの程度「難しさ」を感じられたか』という質問に対しては、半数以上が「難しかった」「大変難しかった」と回答していた。令和2年度はコロナウィルス感染の影響もあり、関東以外の自治体・学校においては弊社からは直接訪問が難しく完全にリモートサポートの環境下で導入、運用保守を行った中で、各学校の担当者の強力なサポートにより成立したが、今後全体的な導入の難点についても他のシステム業者との協業してサポートする等の対策を検討する必要がある。

一方で、完全リモートサポートの中で成立した事例より、今後もウィルス感染の影響を鑑みながらオンライン英会話レッスンを計画するにあたり、リモートでも運用可能な体制・事前準備について前向きに検討出来る要素もあった為、各自治体や学校の方針や要望に応じながらリモートでもスムーズに導入出来る前提で、システムや全体的な運用計画を検討したい。

端末・インターネット回線・機器準備関係でどの程度「難しさ」を感じられたか教えてください。



- 大変難しかった
- 難しかった
- どちらともいえない
- そこまで難しくなかった
- 全く難しくなかった

導入後のレッスン実施における課題

その他の課題：各担当者からの要望コメント

- オンライン英会話レッスン中の「会話の理解」のサポート、英語面のサポート、PDFのテキストの扱い方（紙ベースのもののおあっても良い）に苦労した。
- オンライン英会話レッスンツールの使い方を児童生徒に教えることに苦労した。
- PCやタブレット等の機器の使い方を児童生徒に教えることに苦労した。

<弊社の考察>

基本的に、オンライン英会話中で使用するカリキュラムはPDFで配布し、紙での印刷は学校側に委ねているが、印刷費用（または製本費用）も初期導入費用や予算に含めて計画を進める必要がある。この点についても、事前に利用者および学校関係者にご理解いただいた上で、特にオンライン英会話にまだ慣れていない児童生徒への対応としては「PDFを印刷してご利用頂くこと」を推奨して全体的に計画を進める必要がある。また、レッスン中はスクール専用の日本人サポートが待機しているものの、現在は学校教員とサポート間でのやり取りが必要となる。システムトラブルではない、英会話レッスン中の「会話の理解」に関するトラブルについては、弊社レッスンツールの改良等で、児童生徒が自主的に問題解決に繋がられるような機能の追加等も検討課題として含める必要がある。

英語学習に対する効果①

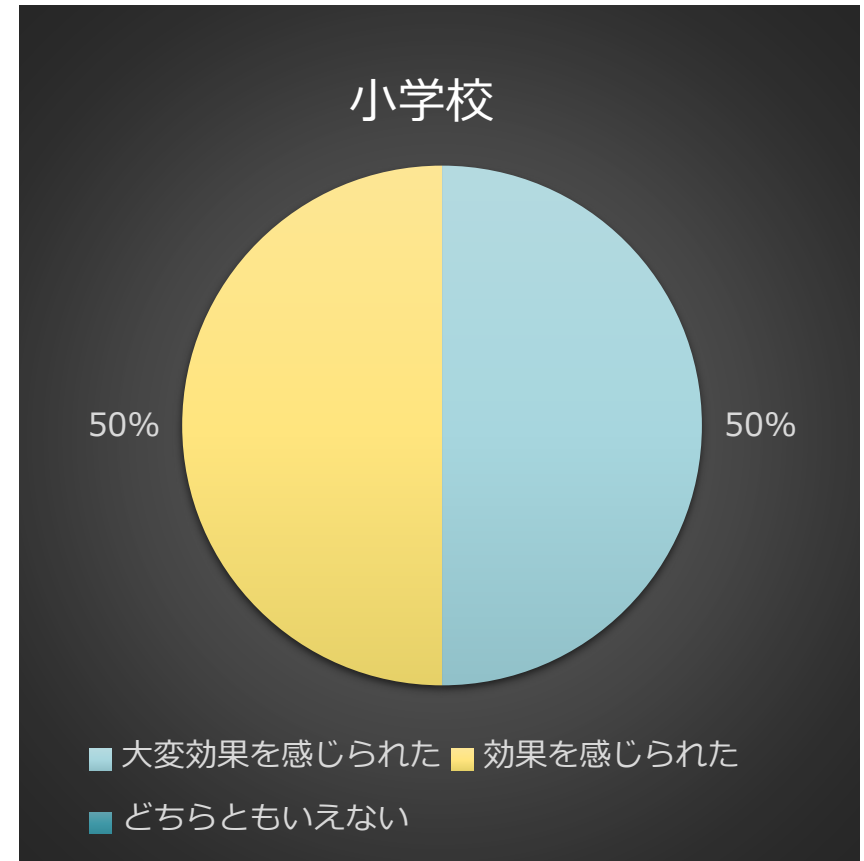
オンライン英会話レッスンによる、児童生徒の英語学習に対する貢献について、自治体・学校の担当者にアンケートを取ったところ、5段階評価中「平均4」と比較的高い評価を得ることが出来た。

まず、公立小学校に関する結果としては、全体として児童の英語学習に対する貢献について「大変効果を感じられた」「効果を感じられた」と、高い評価を得られた。

その中でも、「**英語学習自体の意欲向上**」「**英語に対する不安の解消**」「**英語に触れる機会の創出**」「**スピーキングカ**」「**リスニング**」に関しては特に高い評価を得ることが出来た。一方で、「ライティング」「リーディング」

「学校の英語授業内での積極性」「文法」については、選択するカリキュラムにも影響されているものの、はっきりとした影響を感じられないとの回答も含まれていた。今後は、学校の授業との連動のしやすさを追求する必要もあるが、それ以上に、英語を嫌いになる前に楽しく英会話する機会を提供できたことを評価からも確認出来た。

今回の取り組みによって、児童生徒の英語学習に対する貢献はどの程度感じられましたでしょうか。
(5段階評価)

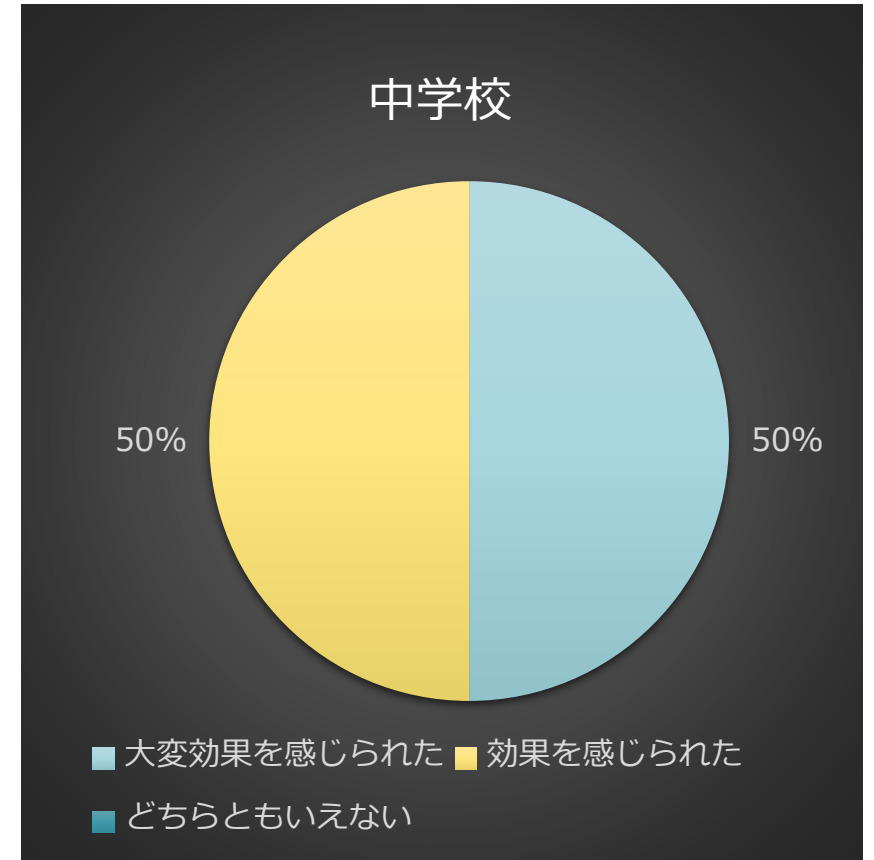


英語学習に対する効果②

続いて、公立と私立の中学校に関する結果としては、小学校同様に全体として生徒の英語学習に対する貢献について「大変効果を感じられた」「効果を感じられた」と、高い評価を得られた。

その中でも、「**英語学習自体の意欲向上**」「**英語に対する不安の解消**」「**英語に触れる機会の創出**」「**スピーキング力**」「**リスニング**」に関しては特に高い評価を得ることが出来た。一方で、「**ライティング**」「**リーディング**」「**学校の英語授業内での積極性**」「**文法**」については、選択するカリキュラムにも影響されているものの、はっきりとした影響を感じられないとの回答も含まれていた。こちらは、採用したカリキュラムや生徒のレベル調査等も含め確認し、今後のカリキュラム構成や開発の参考とした上で、前後の予習復習ツールも含めた展開等、4技能をカバーするための対策も検討課題として含める必要がある。

今回の取り組みによって、児童生徒の英語学習に対する貢献はどの程度感じられましたでしょうか。
(5段階評価)

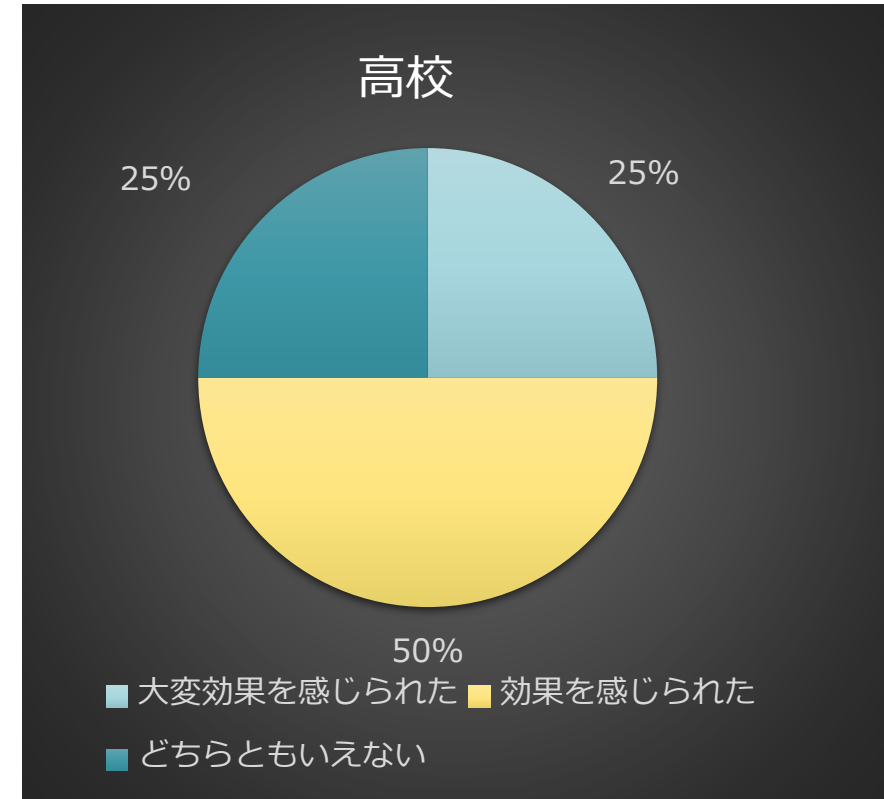


英語学習に対する効果③

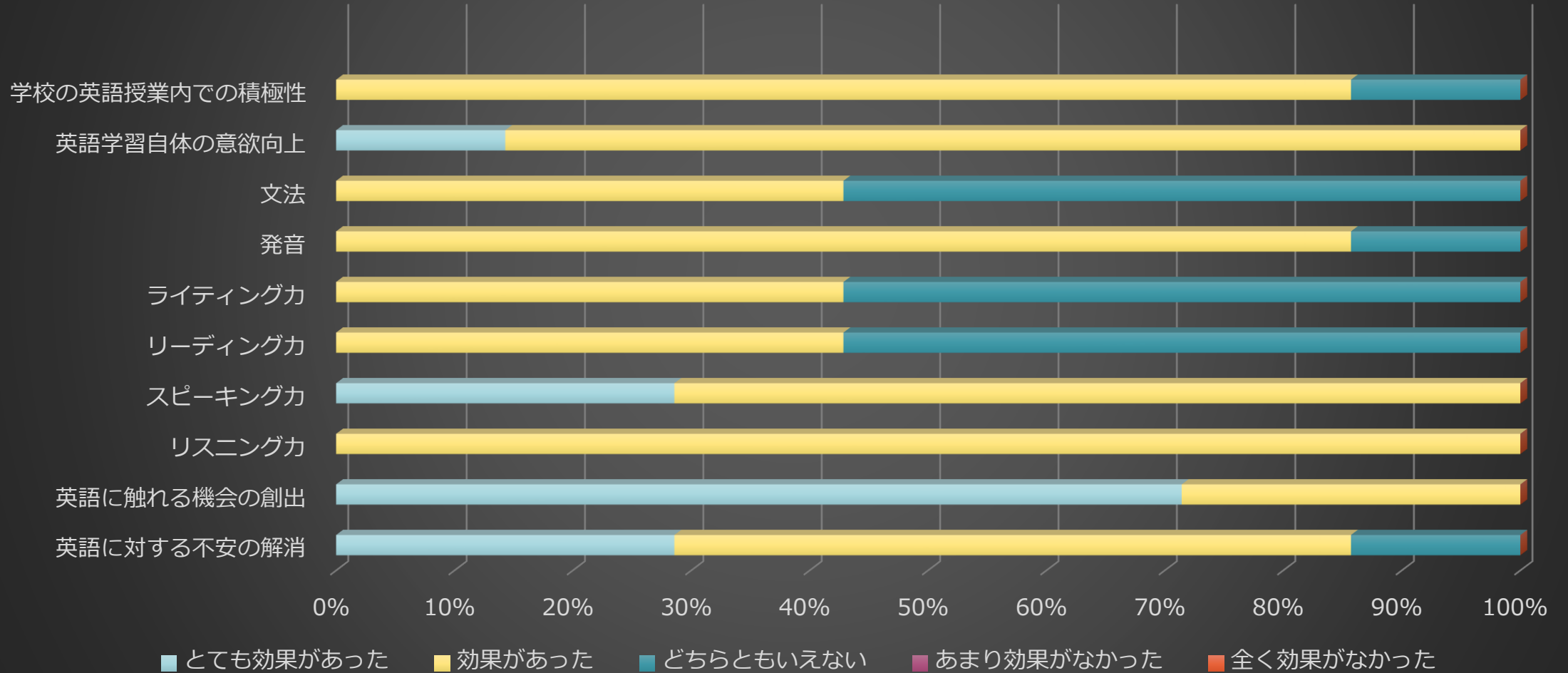
県立高校、私立高校のアンケート結果としては75%の担当者からは「大変効果を感じられた」「効果を感じられた」と高い評価を得ることが出来た。

詳細項目としては、「英語学習自体の意欲向上」「英語に対する不安の解消」「英語に触れる機会の創出」「スピーキング力」「リスニング」「発音」「学校の英語授業内での積極性」に関しては特に高い評価を得ることが出来た。**特に「発音」「学校の英語授業内での積極性」に関しては、今回の調査では、担当者全員が「効果があった」と回答していた。**一方で、受験対策として「ライティング」「リーディング」への期待も高かった。その為、既存の外部試験対策に加えて、受験対策として汎用的に使用できるカリキュラムの開発も視野に入れて検討していきたい。

今回の取り組みによって、児童生徒の英語学習に対する貢献はどの程度感じられましたでしょうか。
(5段階評価)



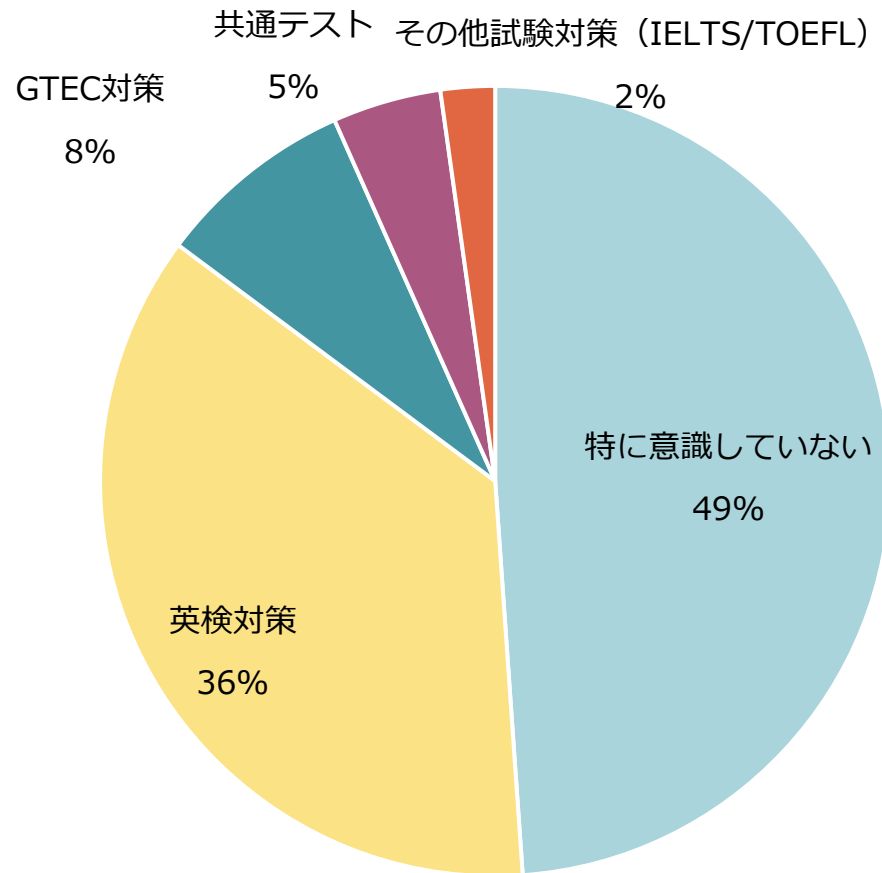
担当者から見た「児童生徒に対する英語学習への効果」に関するアンケート結果



受講者情報①

以下、中学生・高校生の対象者に限り事前アンケートを実施。（任意回答形式）

1. オンライン英会話学習の目的として、以下の「外部試験対策」を意識されているか教えてください。

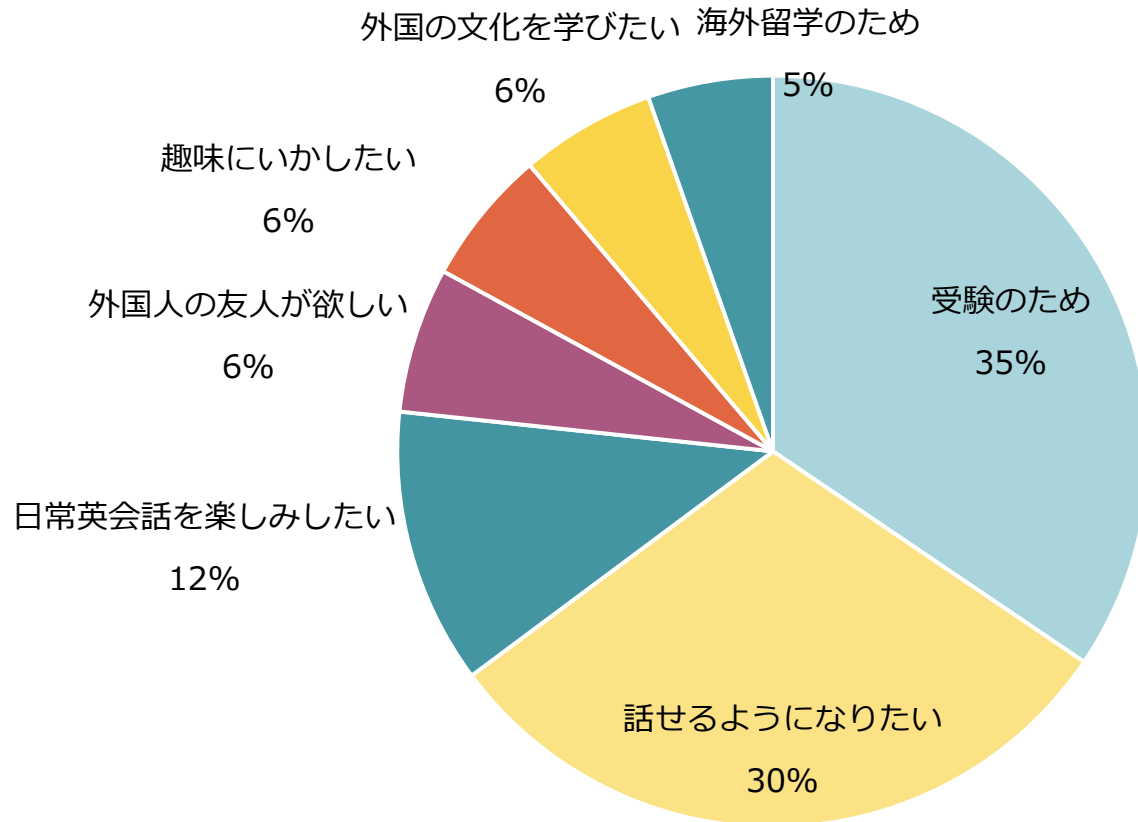


アンケートの回答では外部試験対策に関しては半数近くが「意識していない」と回答しているが、36%が「英検対策」と回答している。また、21ページのグラフでも示している通り、アンケート回答者のうち95%は英検受験経験者の為、次回以降の英検対策を意識している生徒、それ以外の目的も重視している生徒に分かれていると読み取れる。

受講者情報②

以下、中学生・高校生の対象者に限り事前アンケートを実施。（任意回答形式）

2.試験対策以外での「英語学習目的」をお聞かせください。

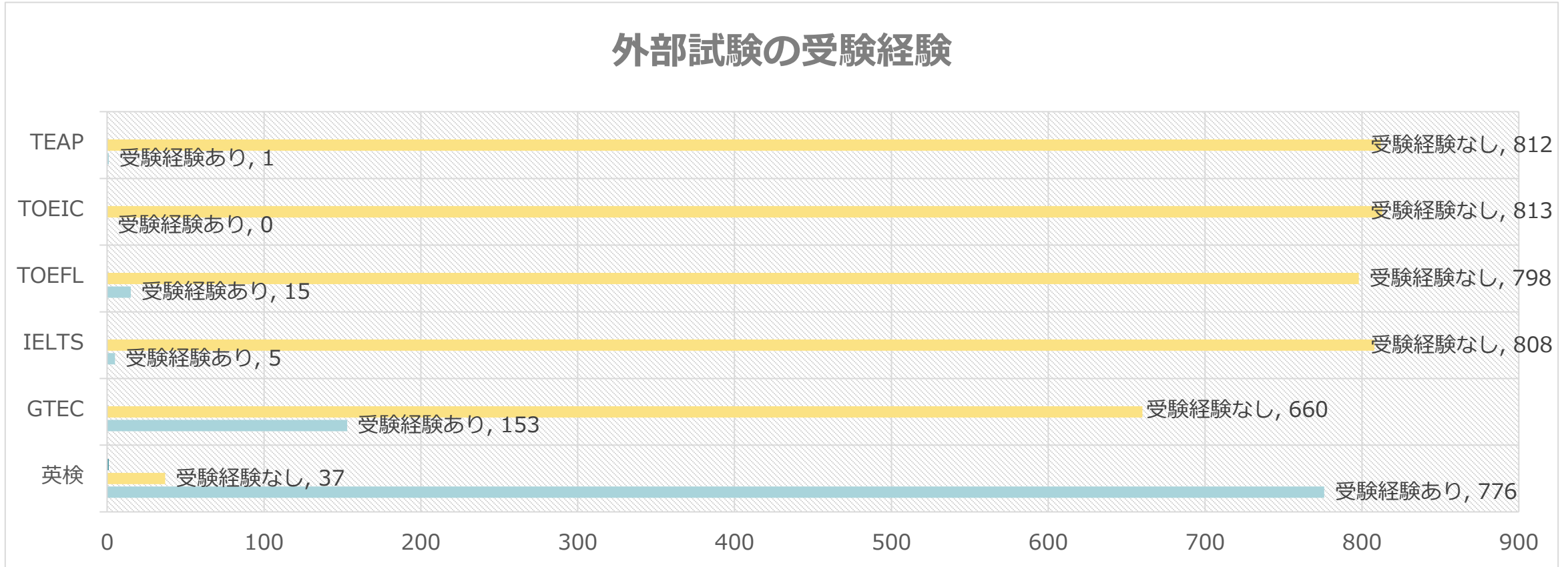


試験対策以外の英語学習目的としては「受験のため」「話せるようになりたい」といった理由が挙げられている。その他、「日常英会話を楽しみたい」「外国人の友人が欲しい」「趣味にいかしたい」「外国の文化を学びたい」等、プライベートで英語を使うことを強く希望している傾向にある。

受講者情報③

以下、中学生・高校生の対象者に限り事前アンケートを実施。（任意回答形式）

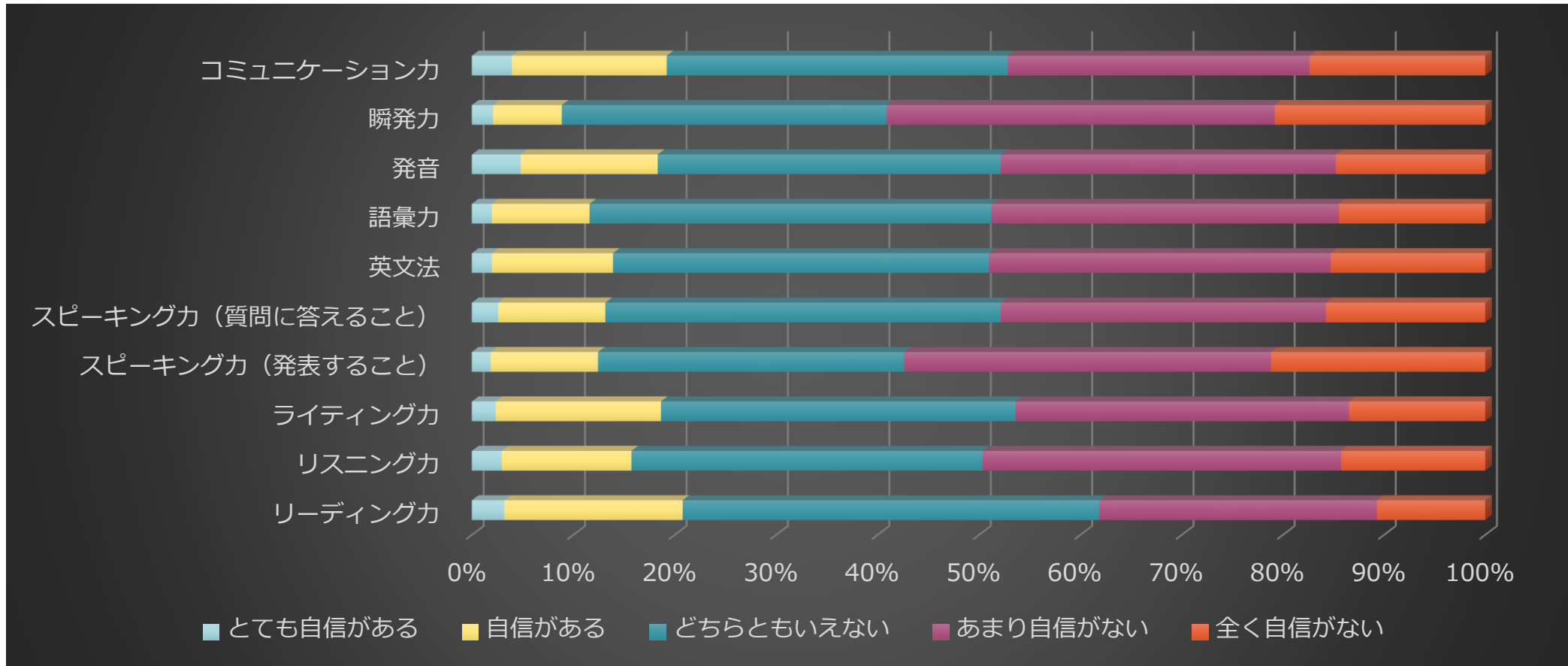
3.以下の外部試験の受験経験について教えてください。



受講者情報④

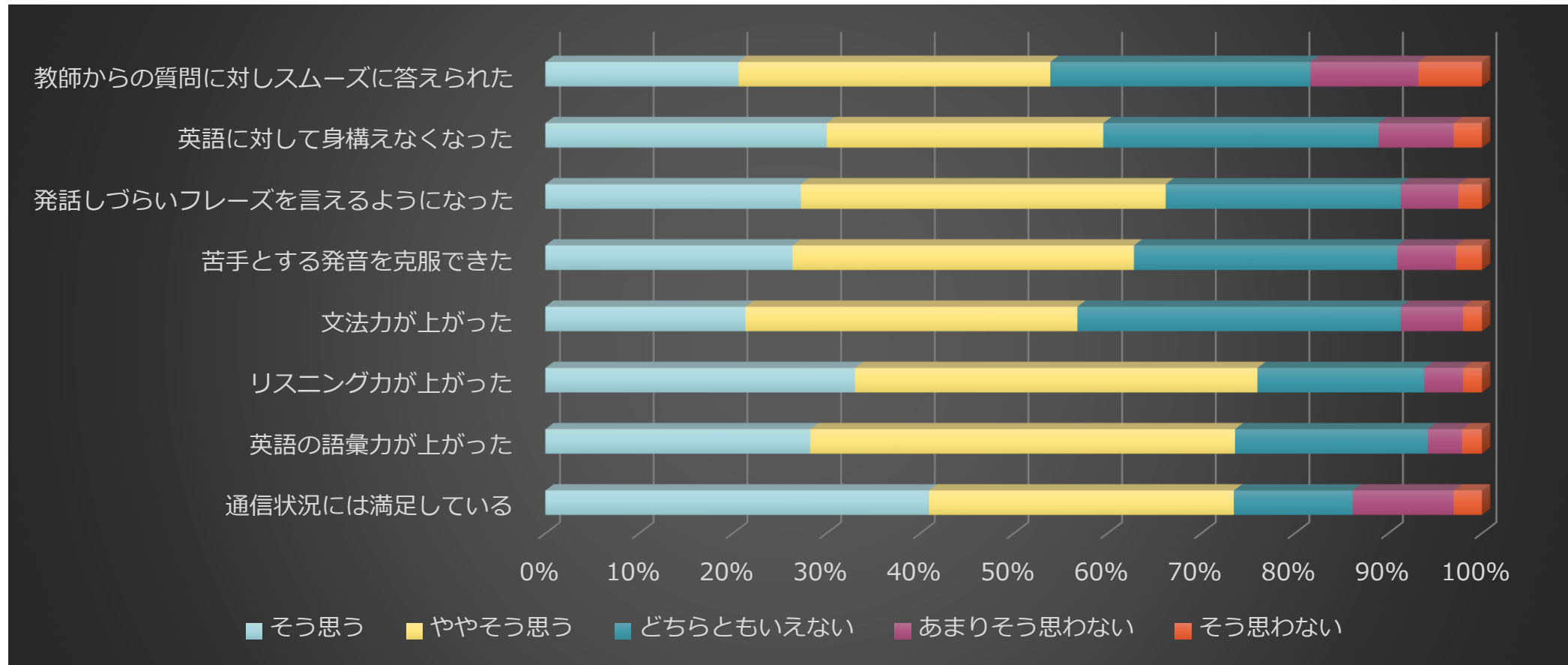
以下、中学生・高校生の対象者に限り事前アンケートを実施。（任意回答形式）

4.ご自身の現在の英語スキルに対する「自信」について教えてください。（5段階評価）



受講者向けの事後ふり返しシート回答結果

以下、中学生・高校生の対象者に限り事後アンケートを実施。（任意回答形式）



今後の展望

◆EdTech導入補助金制度の利用について：

今回の実施校のうち、私立高校は全ての学校から「2021年度の導入に向けて前向きに検討したい」と回答を得ることが出来た。公立学校に関しては、およそ50%の自治体の担当者から「今回問題となった通信関係の問題がクリアになる場合は前向きに検討したい」と回答を得ることが出来た。

このことより、今回の取り組みが、本格導入を決めるにあたり「フィジビリティスタディ」として各自治体（教育委員会）や学校担当者の判断を明確化することに役立てられたのではないかと考えられる。

今後も、今回のような補助金制度に参加出来る場合はICT事業拡大のために積極的に取り組みたい。

◆今後のツール改善、プログラム改善について：

①ツールの改善について：付属品やインターネット回線に対する配慮、また弊社ツールを使用するために必要となるサーバ関係の調整等、各担当者の確認事項や作業が複雑化しないようにマニュアルを整備した上で運用出来るように更なる改善を図る。また、学校担当者より「レッスン中の会話の理解のサポート」も課題として挙げられていた為、ツール上で受講者が自己解決出来るように機能の追加を検討する。

②プログラム改善：受講者の事後のアンケート結果より「文法力」や「質問に対し回答する力」については、プログラムの改善、または適切な他のプログラムを提案することで受講者の達成感や自己効力感に繋げられる可能性があるため、改善について検討する。



ありがとうございます

Gateway to the world !

QQ Englishでは、全ての英語学習者を全力でサポート致します。